

新

シリーズ4 がん診療最前線③ 乳がん<上>

ひょうごの

医療

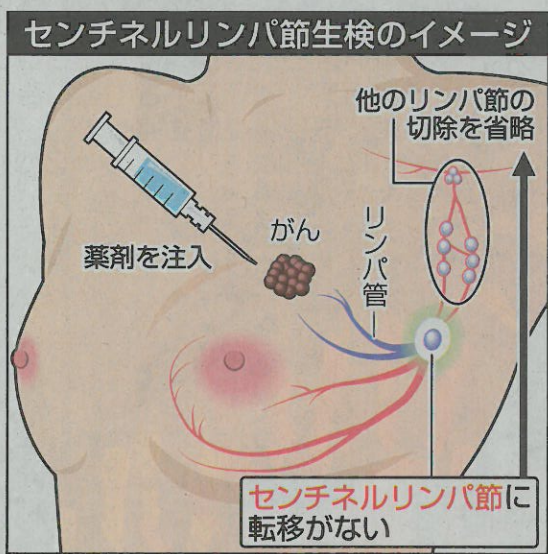
芸能人らの治療公表で関心が高まる乳がんは、女性がかかる可能性が最も高いがん。発症数は毎年増え続け、2015年には約8万9千人と30年前の約4倍、女性1人に1人が発症するとされる。

「がんの遺伝子の状況や病期などに合わせ、抗がん剤、ホルモン剤などの薬物治療は個別化されてきた」と話すのは神鋼記念病院(神戸市中央



山神和彦 乳癌センター長

センチネルリンパ節生検



転移経路調べ 切除省略

乳がん 国立がん研究センターによると、生存率は5年が91%、10年は79%とがんの中では高い。進行度でみると、早期ならば生存率は5年99%、10年94%だが、遠隔転移があれば5年34%、10年15%に下がる。

「ICG蛍光法ならば、より簡単に見つけられる」と強調する。昨年から日本乳癌学会がこの方法も推奨し、山神さんは「抗がん剤治療後は特に適している可能性があり、スタンダードな方法にしていきたい」と話す。

手術では、がんがおおむね3センチ以下ならば、病変部と周囲だけを取り「乳房温存術」、3センチ超ならば乳房を全て取る「乳房切除術」を行う。3センチを超えても、抗がん剤などに

後遺症のリンパ浮腫を抑制

するリンパ節は約10〜30個。かつてはどのリンパ節にも無秩序に転移すると考え、全てを切除していたため、多くの人は腕がむくむリンパ浮腫に悩んでいた。



奥村興科 長

近年、リンパ浮腫を防ぐ手法の研究が進んだ。がんが最初に転移する「センチネル(見張り役)リンパ節」に異常がなければ、他のリンパ節を温存する「センチネルリンパ節生検」が普及し、10年には公的医療保険の対象となった。

手術の直前に乳輪やがんの近くにマーカーを注入。脇の下を約2センチ切り、リンパ液を通してマーカーが最初に流れ着くリンパ節を探す。従来は青い色素を使う方法が一般的だったが、同病院は、インドシアニンググリーンという赤外線で見つけられるマーカーを使う「ICG蛍光法」を採用し、マーカーと

共同で効果を検証している。山神さんは「脇の脂肪が厚い場合は、色素だけではセンチネルリンパ節を見つけにくいことがある。広く深く探すと周囲を傷つけ、リンパ浮腫になる恐れがある」と指摘。

よる術前化学療法でがんを縮小できれば温存も可能だ。同病院では、11〜15年に計1563件と全国でも有数の手術実績がある。63%が温存術、37%が切除術だった。

切除去でなくなった胸の膨らみは、パッドなどで補うほか、乳房再建術でも対応できる。同病院形成外科科長の奥村興さん(49)は「まずはがんを治す方針を決め、次に胸の膨らみをいかに取り戻すかを考えることが大切」と話す。

患者の心構え

不安な気持ち 患者会ではき出す

乳がんを治療する

尼崎市の女性(41)



尼崎市の沢明子さん(41)は2014年3月、左胸のしこりに気付いた。約半年前に設計士として働く会社の健康診断を受診。希望して追加したマンモグラフィ検査は「異常なし」だった。「仕事が忙しくて、胸が張っているのかなと思っただけだった」

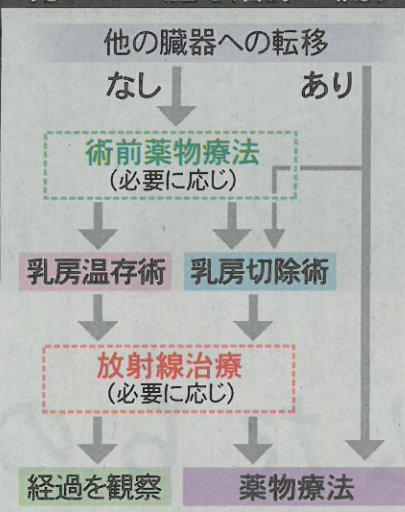
仕事で一段落した4月下旬、病院でマンモグラフィや超音波(エコー)の検査を受けた。さらに磁気共鳴画像装置(MRI)や組織診断など精密検査のため数日間通った。約1カ月後、がんは4・7センチになり、リンパ節転移の恐れもあると告げられた。がんのタイプはホルモン剤や分子標的薬が効かず、進行が早いとされる「トリプルネガティブ」。

「どうして」。胸が張り裂ける思いで問い掛けたが、医師は背中を見せたまま、夫(52)と「信頼できない」と話し合い、セカンドオピニオンを求めた。

別の医療機関の診断も変わらなかったが、「5割が完治します」。医師の言葉にぬくもりを感じ、転院してすぐに抗がん剤治療を始めた。

治療に専念しようと仕事は休職。初めての点滴から約2週間後、浴室で髪が束になっ

乳がんの主な治療の流れ



◇次回の26日は「乳がん<下>」です。電子版「神戸新聞NEXT」に過去のシリーズの特集ページがあります。

羽毛が生えた恐竜の化石が近年の類縁関係が明らかになってきていないため、生態を知る方法で研究する鳥類学との連携が進む。「抱卵」をしていた可能性が言に進化した過程の検証も進む。

鳥類研究と

恐竜は、約2億3600万年前に地球の真下に延びて、爬虫類のグループの真下に延びて、微。恐竜から鳥へのさされるきっかけは、代にドイツで見つ。鳥。外見は鳥の姿で、翼(前脚)に爪尾があり、爬虫類のためだ。

生き残り

恐竜も卵を温めた?

1990年代にはが似ていない恐竜の羽毛があるものが見。中国で見。ノサウロプテリクス。く飛べそうにはな。が、繊維状の羽毛でる。



最近、骨格の分。 獣脚類オルトミムスの想像画。 った成体(上)と、まだ翼のないULIUS-COOTONII

探究す

栄養疫学の等々

米で1997年。ろ、野菜、果物、低脂肪